



大会の様子

弟子屈の魅力に触れて

100km歩こうよゝ大会in摩周・屈斜路2016

100km歩こうよゝ大会in摩周・屈斜路2016(同実行委員会主催)が、7月2日に開催されました。今年で11回目を迎えるこの大会は川湯温泉を出発し、砂湯・コタンを越えて、道の駅摩周温泉を通過、9〇〇草原へ行き、さらに摩周湖へ登り、川湯温泉へ戻ってゴールし、タイトルの通り約100km歩きます。今年も、全国から約220人の大会参加とサポートスタッフ参加があり、弟子屈の景色を楽しみながら歩きました。時間を競う、完歩を目指すだけが目的ではないので、小学生から大人までが参加しています。また、今年も車椅子で参加された方もいました。長距離を歩くため、みんな励まし合いながら歩いていきます。

チェックポイントではサポートスタッフによるマップサイジだけでなく、町民の皆さんによる豚汁のサービスマや声援など、弟子屈の景色だけではなく、人の魅力にも触れられるイベントです。しかし、2日夕方から夜中にかけて暴風雨となり、チェックポイントのテントが飛ばされるなど、参加者・スタッフの安全が確保できないため、3日までの開催予定が途中で中止となってしまい、とても残念でした。(地域おこし協力隊・炭田)



弟子屈中学校で行われた校内選考会

弟子屈の観光プラン発表

弟高3年生の全国高校観光選手権大会校内選考会

弟高生が職場実習

弟子屈高校2年6月22・23の両日、生2人の職場実習が内各事業所など行われました。役場でも8人が仕事を体験。このうち、中野湧層君、坂田岳斗君はまちづくり政策課で実習を行い、広報の取材・原稿作成にも挑戦しました。観光選手権大会校内選考会の写真・記事は、中野君と坂田君が撮影・作成したものです。

左から中野君、坂田君

弟子屈高校(木村浩士校長)の3年生による「全国高等学校観光選手権大会」の校内選考会が6月23日、弟子屈中学校(杉山稔校長)で行われました。同校では毎年、総合的な学習の時間で本町について学び、生徒たちが考えた観光プランを本大会に応募しています。今回の選考会は、中高連携教育の一環として初めて弟子屈中学校3年生が審査員となり行われたものです。10班に分かれて発表し、各班ともスライドによる説明のほか、劇で紹介するなどのさまざまな工夫がされ、高校生たちの熱意が伝わってきました。審査した中学生からは「弟子屈町の魅力を再発見できた」という感想が聞かれました。高校生は全プラン発表後、同席した観光関係者からの講評を受け、弟子屈町の観光産業についての意識をより一層深めていきました。

町の話



町の話

緑のまちづくりに役立てて

緑の募金運動



徳永町長に募金を手渡す弟子屈中学校生徒会の皆さん

7月21日には弟子屈高校のボランティア部・摩周SVCの皆さんが役員を訪れ、生徒や教職員の皆さんから協力していただいた募金を徳永町長・吉備津副町長に手渡しました。募金は今後、町内の緑化推進に役立てられます。

緑化推進の一環として行われた緑の募金運動で、町内の皆さんからご協力をいただいた募金が、弟子屈町緑化推進委員会会長・徳永町長(寄附されました)。運動では、自治会や企業、学校、個人の皆さんなどから募金をいただきました。7月12日には弟子屈中学校生徒会の皆さんが、

弟子屈高校摩周SVCの皆さんから吉備津副町長に募金が

町の話



町の話

工事の安全を願い

弟子屈消防庁舎新築工事の安全祈願祭



くわ入れを行う徳永町長

同庁舎は、現在の庁舎前の道道53号の拡幅工事に伴い、鋸別の旧弟子屈飛行場跡地に移転新築するもので、新庁舎は鉄筋コンクリート2階建てで、延べ床面積は2千169平方メートル。同事務組合と弟子屈消防署の庁舎を兼ねるほか、災害時の一時避難場所や、職員・消防団員の訓練施設としての機能も併せ持ち、来年3月の完成を予定しています。安全祈願祭では、くわ入れや玉串奉てんなどの神事で工事の安全を祈願。徳永町長は「新庁舎建設は長年の懸案事項だった。地域防災の拠点施設として、事故なく落成してほしい」とあいさつしました。

鉤路北部消防事務組合(組合長・徳永町長)の弟子屈消防庁舎新築安全祈願祭が6月29日、鋸別の建設地で行われました。安全祈願祭には、同事務組合を構成する本町と標茶町、鶴居村、工事関係者など約70人が出席。工事中の無事故を祈りました。